

鶏 肉 情 勢

項 目			内 容	実 績																	
供給	1. 国内	(1) 生産・処理動向調査((一社)日本食鳥協会年2月中旬実施)によると、1月の推計実績は、処理羽数56,803千羽(前年比103.2%)、処理重量171.1トﾝ(同104.6%)とともに前年を大きく上回り、前回の計画からも大きく上回るかたちとなった。中部地区で処理羽数(同96.8%)、処理重量(同97.9%)とも前年を下回ったものの、北海道・東北地区(同105.3%・同106.8%)および南九州地区(同102.7%・同104.9%)が大きく上回ったことや、種鶏の改良や飼養技術の向上で廃棄割合が減少(前年差△0.59%)したこと等が要因と思われる。	生産状況 単位:千羽、千トン、%																		
			H29年推計実績累計		H30年1月推計実績		H30年2月計画		H30年3月計画		H30年4月計画										
			数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比									
			入雛羽数	726,548	100.7%	61,849	103.0%	56,133	99.7%	61,232	102.3%	58,661	99.6%								
供給	2. 輸入	(1) 財務省2月27日発表の貿易統計によると1月の鶏肉(原料肉)輸入量は48.3千トﾝで、日本食肉輸出入協会の直前の予測(53.3千トﾝ)を下回ったが、前年比152.2%の大幅増となった。国別輸入量では、ブラジルが36.6千トﾝ(前年比173.8%)、タイが10.3千トﾝ(同109.6%)となっている。同協会は輸入動向検討委員会(2月19日開催)で「2月現在、鶏肉全体の消費が引き続き順調な中で、輸入鶏肉はブラジル産を中心に依然として現地積出数量が高水準で推移しており、12月に一旦減少した在庫が1月には再び増加に転じると見込まれる。今後も荷動きが重い状態はしばらく続くと思込まれることから、価格の動向が不透明な状況は変わらない。」とコメントしている。	輸入動向 単位:千トン、%																		
			品名	鶏肉			調製品			合計			比率								
			履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	鶏肉	調製品							
			H29年10月	57.8	50.1	115.5	42.4	35.5	119.6	100.3	85.6	117.2	57.7	42.3							
需要	1. 家計消費	(1) 総務省統計局発表の家計調査報告によると、平成29年累計全国一世帯当たりの生鮮肉消費(購入)金額は前年比101.9%の72,902円となった。うち鶏肉については、購入数量は16.3kgで前年並みであったものの、健康志向・低価格志向等からの底堅い鶏肉需要を背景に、一部量販店で鶏肉g当り単価を上げたなどもあり、購入金額は15,816円と前年を上回る結果となっている。 ※H30年1月分より総務省統計局の発表が見直されるため、1月分は次回掲載	消費動向(2人以上の世帯) 単位:グラム、円、%																		
			履歴	数量			金額			相場(年別・暦年) 単位:円											
			当年	前年	前年比	当年	前年	前年比		もも肉	むね肉	計									
			H29年11月	1,443	1,493	96.7	1,387	1,352	102.6	H24年	563	189	752								
需要	2. 量販・卸	(1) 日本チェーンストア協会によると1月の食料品販売額は前年比101.2%、その中で畜産品は同100.9%とほぼ前年並みであった。青果類(白菜・ねぎ等)は日照不足や豪雪等の影響で高値で推移したため、同105.3%と大きく伸びた。牛肉全般や国産豚肉が総じて不調とする店舗が多いなか、気温低下による鍋物需要から輸入豚肉や鶏肉は好調との報告もあった。逆に、このことが販売額を押し下げたと考えられる。	H25年										583	246	829						
			H26年	626	294	920															
			H27年	639	336	975															
			H28年	621	255	876															
需要	3. 業務・加工筋	(1) 日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ鶏肉の加工品仕向肉量は、サラダチキンや唐揚げの需要拡大等による国内製造拡大を背景に、平成29年累計で52.8千トﾝ(前年比104%)、うち国内物45.2千トﾝ(同101%)、輸入物7.6千トﾝ(同126%)とともに増加しており、この傾向は今年度も継続するものと思われる。	H29年										626	315	941						
在庫	1. 29年12月	(1) 最需要期で国産・輸入品とも出回り量が増加(前月比+14千トﾝ・+6千トﾝ)し、在庫は前月を下回ったものの、前年比では国産が生産量増加(102.2%)で26.8千トﾝ、輸入品は輸入量増加(+140.7%)で140.7千トﾝと合計で167.6千トﾝ(114.7%)と高い水準となった。	在庫状況 単位:千トン、%																		
			履歴	国産			輸入品			合計											
			当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比										
			H29年9月	29.5	25.6	115.3	131.9	139.5	94.6	161.5	165.1	97.8									
在庫	2. 見通し	(1) 1月の国産在庫は、販売が順調で出回り量は前年を上回ったと考えられるが、生産・供給量が潤沢であったため前年を上回る見通し。2月については、出回り量は増加するものの生産・供給量がそれ以上に増加すると予測されているため前年を若干上回る見通しと思われる。	H29年10月										26.8	25.9	103.6	144.5	139.1	103.9	171.3	165.0	103.8
			H29年11月	27.3	24.6	111.2	150.9	137.2	110.0	178.2	161.8	110.2									
			H29年12月	26.8	24.2	110.7	140.7	121.8	115.5	167.6	146.1	114.7									
			※実績参考資料:畜産日報、農畜産業振興機構																		
相場	1. 2月動向	(1) 2月の相場は、もも肉663円/kg(前月比10円下げ)・むね肉304円/kg(同8円下げ)で、正肉合計で967円/kgと前月比18円下げとなった。もも肉は2月初め671円、月末659円と例年なら下げに動くところ、寒波等で野菜が高騰したものの鍋物需給が好調だったこともあり小幅な下げに留まった。むね肉は、輸入鶏肉価格の軟調に引きずられ下げ基調ではあるが、月末311円と持ち直しており、依然として旺盛な需要に支えられ前年比+20円と相変わらず高い水準が継続している。	相場(月別) 単位:円、%																		
			品名	もも肉			むね肉			正肉合計											
			履歴	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比	当年	前年	前年比									
			H29年11月	605	640	94.5	319	271	117.7	924	911	101.4									
相場	2. 3月見通	(1) 3月1か月の天候見通しで、気温は平均より高いと見込まれており、鍋物需要も落ち着くためもも肉は若干の下げで、月平均で645円と予測する。また、むね肉は保合い圏内で300円と予測する。	H29年12月										644	669	96.3	318	258	123.3	962	927	103.8
			H30年1月	673	681	98.8	312	253	123.3	985	934	105.5									
			H30年2月	663	685	96.8	304	284	107.0	967	969	99.8									
			H30年3月	(645)	674	95.7	(300)	313	95.8	(945)	987	95.7									
										H30年4月	(630)	658	95.7	(300)	325	92.3	(930)	983	94.6		
										H29年平均	626	621	100.8	315	255	123.5	941	876	107.4	※1-12月平均	
										※()は見通し											